

「在宅医療・介護の連携」 に向けた取り組みについて

～住み慣れた地域で最後まで暮らせる可能性を実感できる
地域づくりを目指して～

桑名市北部東地域包括支援センター

「在宅医療・介護の連携」 に向けた取り組み



地域包括支援センターでできる事業？ 取り組み？ イベント？



正直なところ
難しい・・・



「在宅医療・介護の連携」に向けた取り組み

→ その目的は…

地域包括ケアシステムの構築

桑名市地域包括
ケア計画より

『病院完結型』から、地域全体で支える『地域完結型』への構造転換

在宅介護と連携した在宅医療の推進

桑名市地域包括
支援センター
事業運営方針
より

医療から介護・福祉への切れ目のないサービスを提供できる体制整備

★「入退院支援ルール」の周知及び効果的な活用

★桑名市在宅医療・介護連携センターにおける取り組みへの連携協力

- ①地域住民への普及啓発 ②医療介護専門職に対する研修
- ③医療介護関係者間の情報共有 ④在宅復帰を支援する退院調整

圏域の住民さんはどう感じているのかな？

平成30年度桑名市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【いきいき・くわな】より

問8.地域包括ケアシステムについて

問1.地域包括支援センターを知っていますか？

・知っている、どういうところかわかる

603/1850

32.6%

周知啓発不足

問2.介護が必要になっても医療・介護サービスを受けながら住み慣れた地域で暮し続けられると感じますか？

・とても感じる、まあまあ感じる

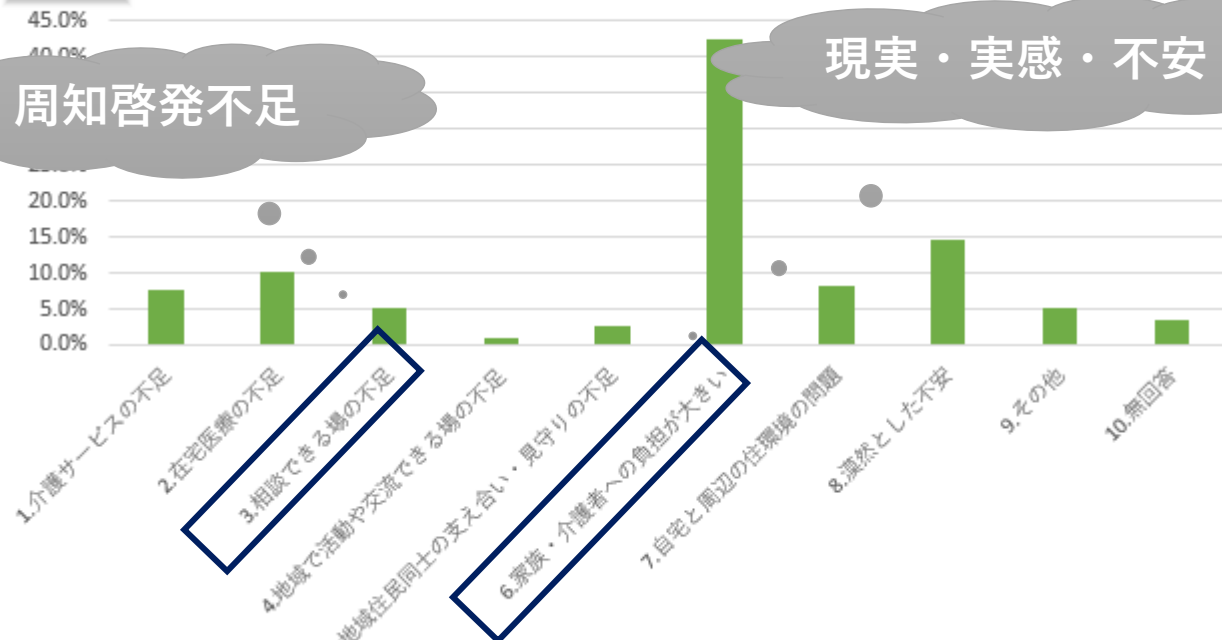
921/1850

49.8%

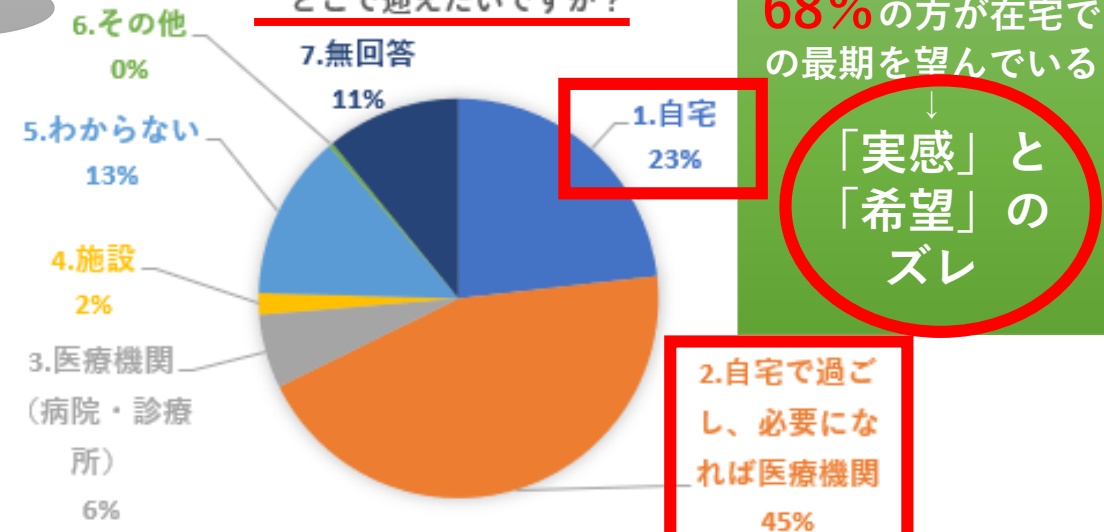
約半数は
「感じていない」

グラフエリア

問3. 問2においてあまり感じない・感じないと回答した理由



問4.あなたが人生の最期を迎えるときは
どこで迎えたいですか？



「在宅医療・介護の連携」に向けた取り組みについて、その「目的」と「住民の意識」から導いた北部東地域包括支援センターの方針

★「在宅医療・介護の連携」により、在宅介護・在宅医療における家族の負担感の軽減が実感できる取り組みが必要であり、それにより「最期まで住み慣れた地域で暮らすこと」に対する住民の実感と希望とのズレを埋めることが大事

①桑名市地域包括支援センター事業運営方針に示された
取り組みに対して忠実に活動を進める

②現在行っている事業や取り組み、イベント、各個別ケース支援等
に関し、「医療との連携」という視点をプラスして強化する。
併せて、地域包括支援センターのさらなる周知に努める。

①

事業運営方針に基づき行った事業実績1

A 入退院支援ルール の周知及び効果的な活用

- ・ 入退院連携シートの活用数 ⇒ **13件**
(そのうち海南病院の連携シート活用数 ⇒ **6件**)
- ・ 運営推進会議で「くわな入退院の手引き」の周知
- ・ 包括だよりにおける「入院への備え」特集記事

ほくふひがしほうかつ 第8号

北部東包括だより

こんにちは。早名市北部東地域包括支援センターです。
地域包括支援センターは、高齢者生活(主に65歳以上の高齢者の生活や福祉の総合相談窓口です。
介護保険に関すること、日常生活で困りごと、高齢者の生活などの相談を行っています。当センターは、介護保険
には関係のある関係者、社会福祉士、主として介護支援専門員の専門職があり、地域の方の困りごとを聞き、一
緒に考え、お答えしていきます。

こんな時どうする!?

まさかの病気、入院...できることなら健康でいたいのですが、もしもは突然やってくるものです。
普段からできるちょっとした備えについて考えてみませんか?

①入院時の準備

入院時のセットといえは何か必要だと思いますか? 周りの人が困らないためにも、
次のものは分かる場所にまとめておきましょう。

- ・医療保険証
- ・診察券
- ・お薬手帳
- ・介護保険証(65歳になったら桑名市から郵送されます)
- ・連絡先(親族、担当ケアマネジャー等)

②もしもの連絡方法を決めておく!

- ・家にいるサインを決めて知らせておく(カーテンの開け閉め、新聞のあるなし など)
- ・緊急連絡先をわかりやすい場所へ貼っておく
- ・旅行など長期外出のときは近所に声をかける
- ・家族、信頼できる人に力を貸しておく

桑名市北部東地域包括支援センター

担当エリア：大和・深谷・長島
時間：8:30~17:15
住所：桑名市長島町松ヶ島68番地
デイサービスセンター併設案内
電話：0594・42・2119

【発行日】
令和元年6月



地域密着型介護事業所
での運営推進会議にて
「くわな入退院の手引き」
について説明

①

事業運営方針に基づき行った事業実績2

B

地域住民に対する 普及啓発

- ・ 出前講座におけるACPの周知 ⇒ **年間7回実施**

(新所まめじゃ会・ことぶき大学・ふれ愛ふかや・かおるヶ丘まめじ会・
一人暮らし交流会・宅老所竹の和・介護事業所)

(うち1か所で「もしばなゲーム」実施)



介護事業所の職員さん対象に**ACPの周知・啓発**、「もしばなゲーム」の体験をしていただきました。

出前講座のメニューに組み込み、通いの場や公民館の講座、社協の事業等で周知に努めました



①

事業運営方針に基づき行った事業実績3

C

医療・介護関係者間の情報の共有

★ゆめはまちゃん医療介護ネットワークを活用している個別ケース数

➡ **4件**

D

医療・介護専門職に対する研修への参加

★研修会への参加回数・参加人数



参加回数	北部東包括職員参加人数（延べ）
7回（見込み） ※1/22時点	20名 ※1/22時点

E

在宅復帰を支援する退院調整

★退院調整会議への出席数
（各年度12月末日時点）



平成29年度	平成30年度	平成31・令和元年度
計 10回	計 9回	計 12回

X

相談票集計からみる「医療連携」 に対する職員の意識変化

（各年度12月末日時点）



平成29年度	平成30年度	平成31・令和元年度
計 184	計 267	計 272

在宅医療・介護連携支援センターが主催する研修に参加して、自分の業務に活かせたこと



医療職の方と顔の見える関係ができ、認知症の方の情報、支援方針の共有がスムーズにでき、ご家族の支援にもつながりました。

制度や社会資源の変遷に合わせたキャッチーな情報を知り、具体的に利用者さんにご提案できました。



訪問時に「口」を観察するようになり、歯科受診を勧めたり定期検診を案内するようになっています。

医療職の専門的かつ現実的な話を様々な職種の方と聞き、それを共有したり現場で起きていることを知ることができ、認知症に対する知識や理解の裾野が広がりました。

夜の研修が多かったためあまり参加できなかったのですが、職員からの報告を聞き、現場での最新情報に乗り遅れないよう学んでいます。

顔の見える関係づくりができたことで、日々の業務の中で様々な機関と連携するときに情報の共有がスムーズになりました。



それぞれの専門性や視点を学び、相談やプラン作成に反映させることができ、広い視野で物事をとらえることができるようになりました。



【事例】医療・介護関係者間の情報の共有



在宅医療・福祉統合ネットワーク

ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク



活用事例



介護事業所



地域包括



夫



本人

- ・ 60歳 女性
- ・ 夫婦二人暮らし
- ・ 要介護2
- ・ 若年性認知症
- ・ J2、IIIa

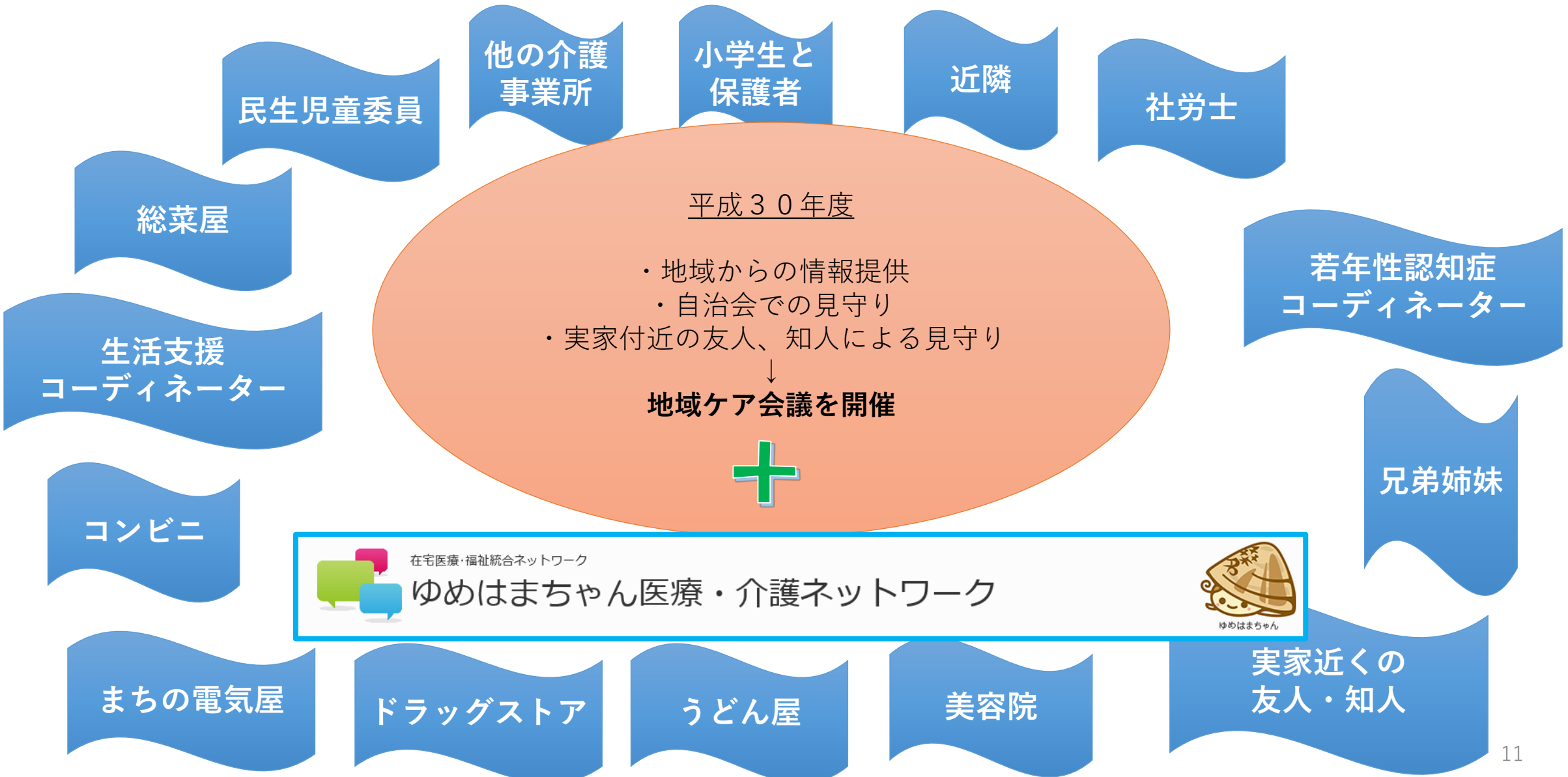


主治医

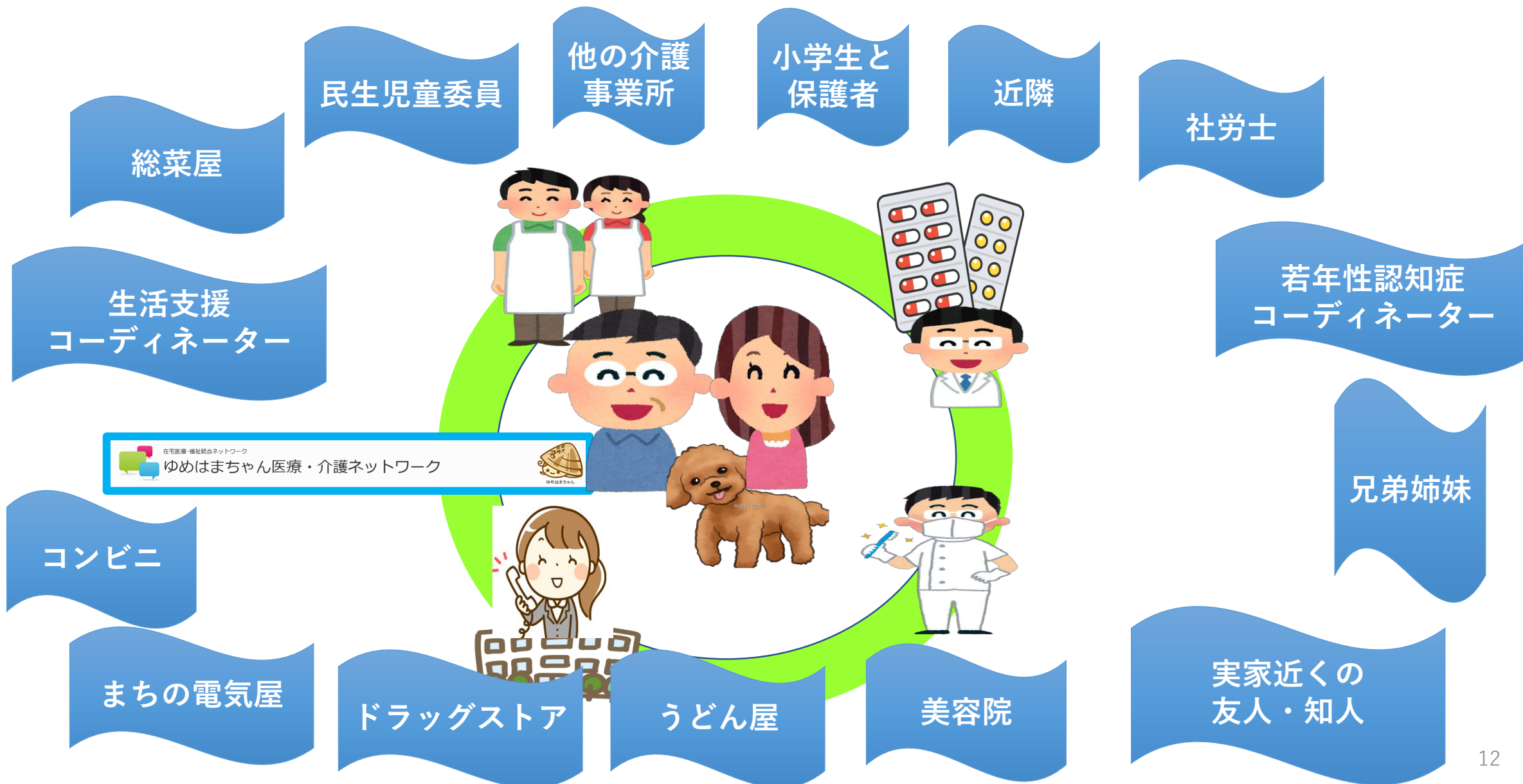


歯科医師

【事例】医療・介護関係者間の情報の共有



【事例】医療・介護関係者間の情報の共有

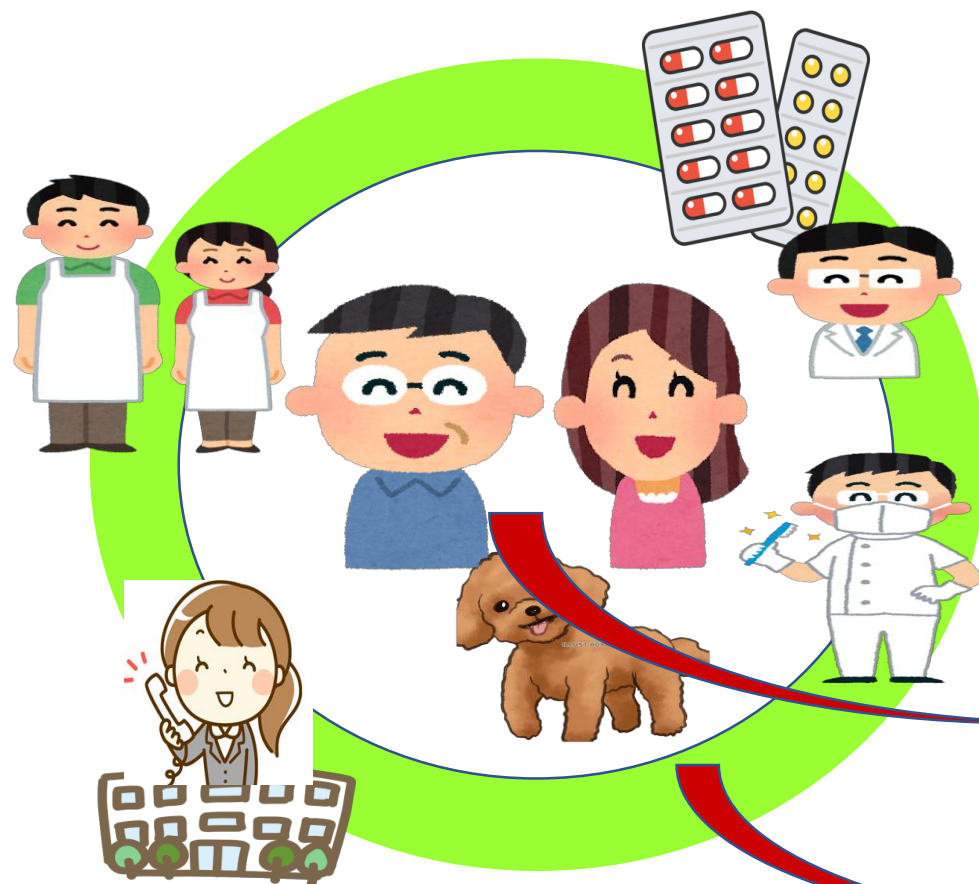


【事例】医療・介護関係者間の情報の共有



在宅医療・福祉統合ネットワーク

ゆめはまちゃん医療・介護ネットワーク

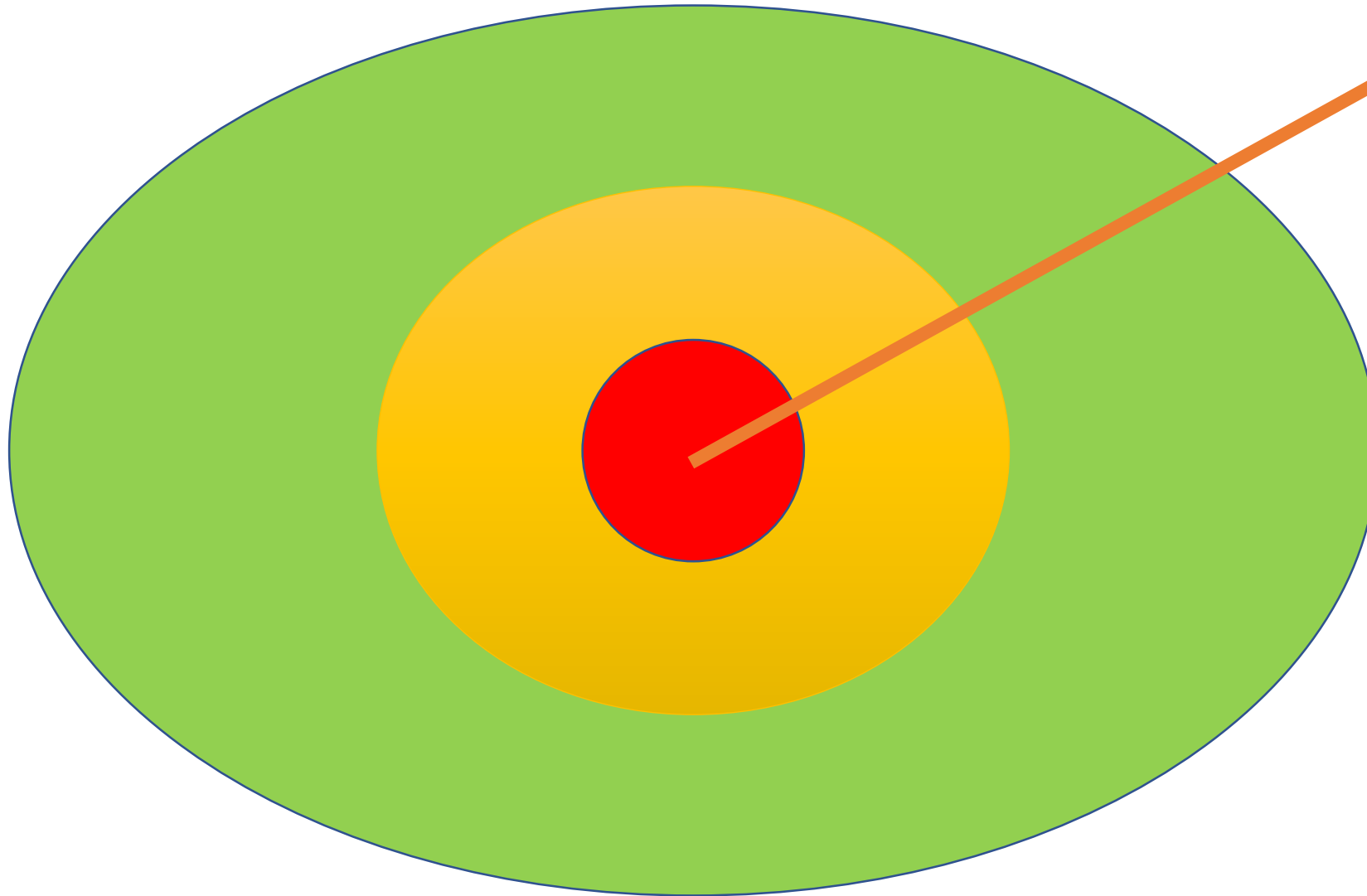


在宅の限界が
高まる

介護負担が軽減

関係者が情報を
タイムリーに共有

北部東包括 「医療連携」イメージ図



第1層（**中核部分**）
「桑名市地域包括支援
センター事業運営方針」
に基づく取組み

②現在行っている事業や取組み、イベント、各個別ケース等 に関し、「医療との連携」という視点をプラスして強化する。

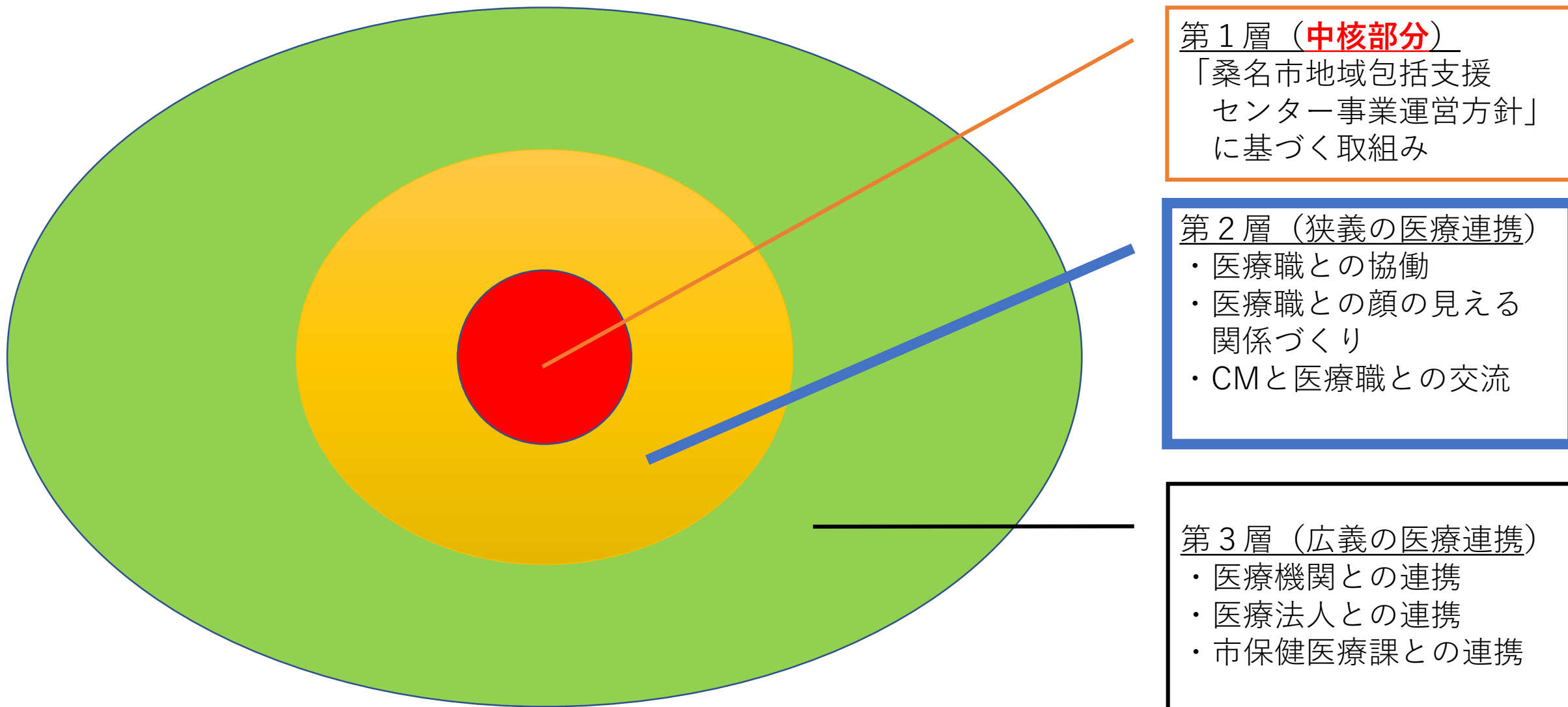
どんなことが
できたかな？



みんなで考えてみました！
(ブレインストーミング → KJ法)



北部東包括「医療連携」イメージ図



第2層での取り組み①(医療機関への広報・周知、住民への周知)

日々の業務の中における、ある職員の気づき

もっと早期に包括が支援をさせて
もらえていたら(;_;)
医療機関、地域、商店の方は認知症が進行
していると気づいていたのに、、、、

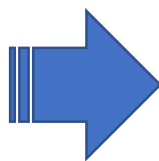
「一定のリスクを抱える高齢者について、
可能な限り早期に問題を把握し、
住み慣れた地域で生き生きと暮らし
続けられるよう。。。」



地域包括支援センターのことをよりわかり
やすく知ってもらうためにチラシを刷新。

圏域内医療機関への掲示・配布を依頼。

→ 医療機関・医療にかかる住民からの相談が
スムーズにつながりやすいように



高齢者に関する総合相談窓口

大町・藤井・長尾 ☎0594-42-2119
FAX:0594-41-0515

桑名市北部東地域包括支援センター

地域包括支援センターでは、専門職として主任介護支援専門員(ケアマネジャー)・保健師または総務のふる看護師・社会福祉士が連携して、地域の皆様の介護や健康・医療・福祉など様々な相談に応じます！お気軽にご相談下さい。

「最近、おばあちゃん、物忘れがあるね、認知症かな？」
「この様、これをいじると、うがをする前に何か予期できる方法はないかな？」

ぜひお気軽に、地域包括支援センターにご相談を！

「お婆ちゃんとお爺ちゃん、いじょうになってきたね、どうしたいの？」
「僕の家はみんながする声や大きな音がするから心配です。どうしたいの？」

開所時間 8時20分～17時15分(土日祝祭日除く)
※時間外の連絡は、携帯電話に連絡されます。
住所 〒511-1122
桑名市桑名町8-66番地
ダイヤル・センターは2階2号

通いの場に参加してみませんか？

地域の活動に参加することは健康にいいことです。

よく笑うと、脳卒中や心疾患リスクが低くなる☆
人との交流が多いほど健康に良い☆

さらに…通いの場を作ってみませんか？

地域の方が参加できる場所を作って、交流の輪を広げることができます。

北勢圏域にはたくさんの通いの場があり、多くの高齢者が通いとして活躍されています。しかし、もっともっと気軽に交流できる場を必要としている人がたくさんいます。みなさんが地域で活躍するきっかけになっていただければ、私たちの力で実現させていきます。

★みなさんの力で地域を元気に★

地域包括支援センターは自宅訪問を行っています！

桑名市は65歳以上の方を対象に健康維持に関するアンケートを行っています。

アンケート項目
①に家族や介護状況
②からたきかすこと
③東へること
④毎日の生活
⑤地域での活動
⑥たすけあう
⑦健康

アンケート結果をもとに、週1回、ご自宅や介護施設等に訪問し、質問・回答を行っています。

ご本人・ご家族・ご友人、どなたでも相談できます！
桑名市北部東地域包括支援センター 桑名町8-66番地(☎42-2119)

第2層での取組み②(薬剤師との顔の見える関係づくり)



圏域内の薬局・医療機関に「北部東包括だより」の掲示をお願いしました。

第1回



第2回



隔月行っている健康サポート薬局薬剤師さんとの情報交換会の場に、主に圏域のケアマネさんを招き、**薬剤師さんとの連携の仕方や居宅療養管理指導についての講話や交流会**を行いました。1回目の交流会がどのように活かされたか把握するため、1月に2回目を開催しました。



出前講座のメニューに「**薬のお役立ち情報**」を組み込み、健康サポート薬局の薬剤師さんの協力を得て、地域のシルバーサロンや単位老人クラブの集いで講座を行いました。

新人保健師：出口が囃く！

特集 薬剤師さんに聞いてみました！

令和元年9月、健康サポート薬局 北部東包括だより「医薬品副作用被害救済制度」にお便りしました。

薬剤師さんが地域住民の方に伝えることはありますか？

そうですね。かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師についてですね。

それは、普通の薬局や薬剤師さんとは違うのでしょうか？

自分で薬局や薬剤師を選ぶことができます。自分の好みや性格に合った薬局、薬剤師を選ぶことで、自分のニーズに沿った相談に応じることができます。

かかりつけ薬局・薬剤師さんを選ぶポイントはありますか？

まず、様々な薬の調剤や検査をしてくれること、そしてすべての薬の相談に乗ります。またかかりつけをもつと、性格・生活スタイルに合わせて24時間相談に対応できます。

家の近くの薬局はすべてかかりつけ薬局・薬剤師になってもらえるのですか？

いいえ、一定の条件を満たした薬局・薬剤師がかりつけになることができます。

かかりつけ薬局を選んだり、かかりつけになってもらうための手続きを教えてください。

まずは、近くの薬局へ相談してみてください。

北前市や市川町はかかりつけ薬局までの距離はありますか？

この圏域にはかかりつけ薬局がありますね。

ありがとうございます。地域のみならず、ぜひかかりつけを活用して、健康維持に役立てていただければと思います。以上、インタビューでした！

健康サポート薬局！
私たちと一緒に地域に定着します。訪問もしますのでお気軽にご相談ください。必ず電話の予約をお願いします。

令和元年9月から入職しました。保健師の出口 ゆりあです。趣味は映画鑑賞です。よろしくお願いいたします。

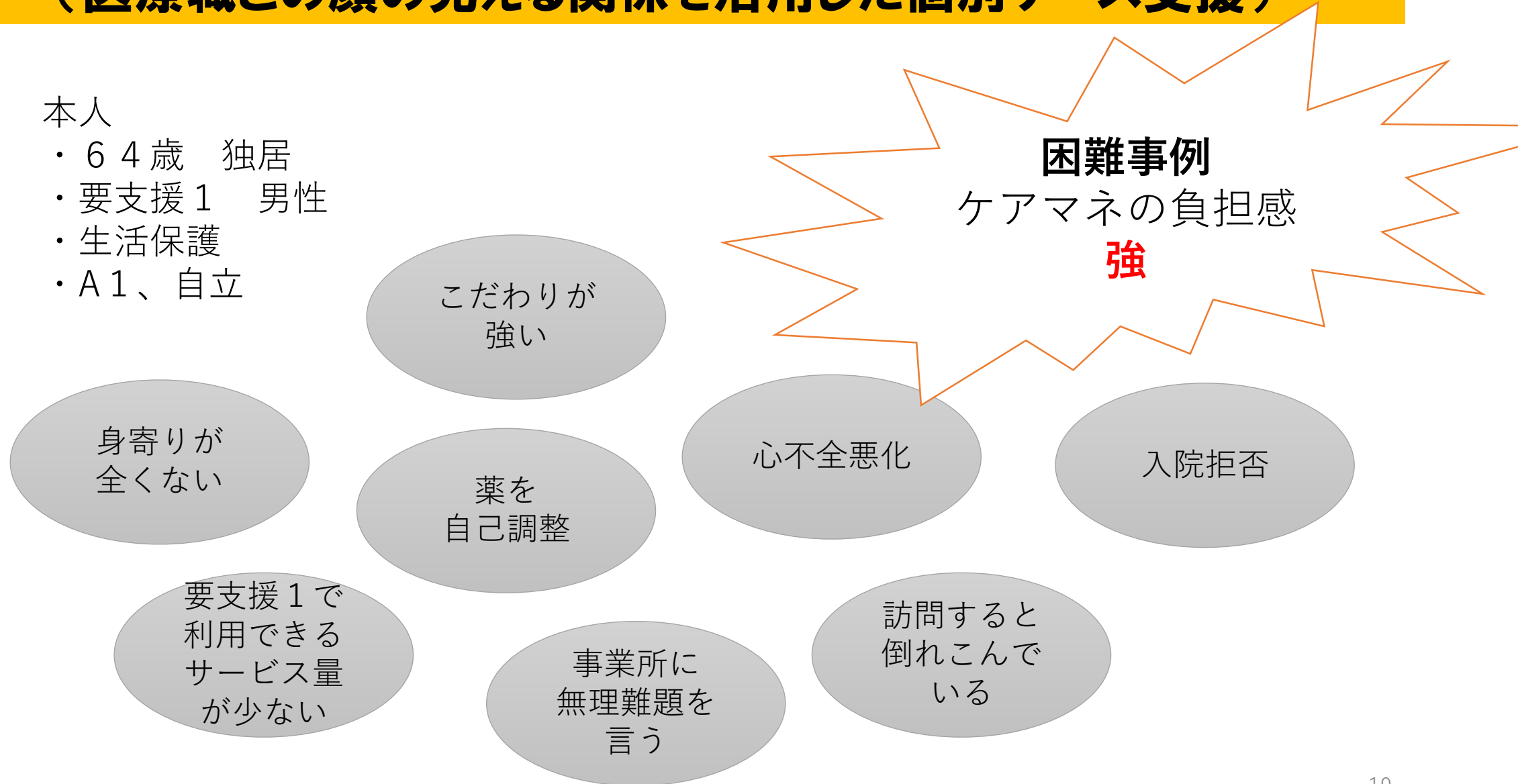
小澤 小柳 内山 市川 出口 丹羽 杉山

包括だよりにて「**かかりつけ薬局**」について特集。健康サポート薬局を活用し薬剤師に取材。地域住民への啓発、医療機関への掲示依頼・配布も行いました。

第2層での取り組み【事例】 （医療職との顔の見える関係を活用した個別ケース支援）

本人

- ・ 64歳 独居
- ・ 要支援1 男性
- ・ 生活保護
- ・ A1、自立



第2層での取組み【事例】 （医療職との顔の見える関係を活用した個別ケース支援）

本人の希望「家で死にたい」

ケアマネ・関係者「希望は叶えてあげたい。しかし課題がたくさん・・・どうしたらいいのか」

⇒支援調整会議の提案

（優先順位が高い課題）

適切な服薬管理ができない、入院を勧められるが拒否

- 主治医にケアマネとともに現状報告、本人の望む最期のために協力を依頼
- 主治医より「訪問看護を入れよう。最期も本人の思うように自宅での看取りをします」
- 訪問看護の調整、全身状態の把握・主治医との連携が容易に



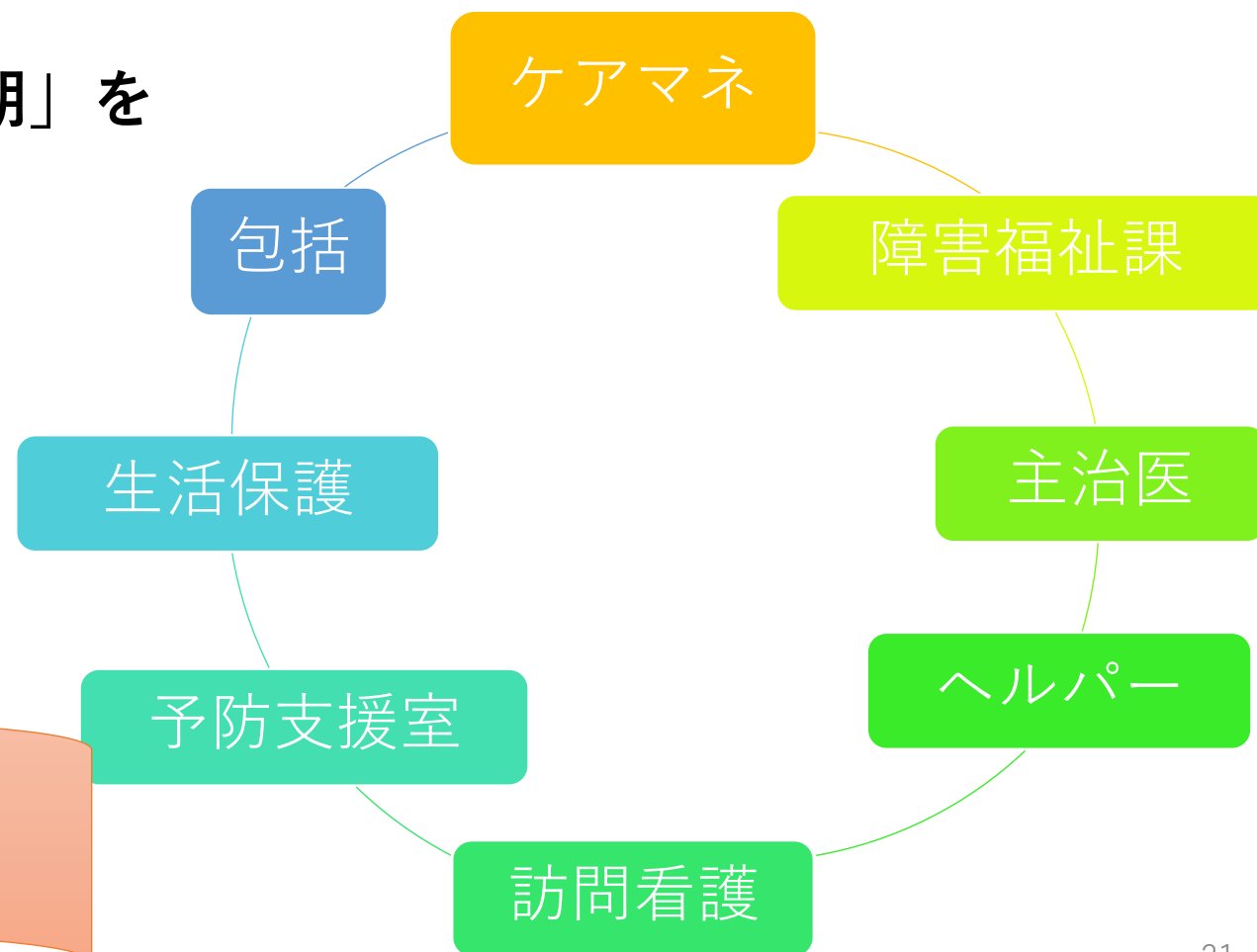
第2層での取組み【事例】 （医療職との顔の見える関係を活用した個別ケース支援）

目的

本人の希望である「自宅での最期」を迎えるための体制づくり

- ・ 本人の意思を関係者であらためて確認
- ・ 予後、緊急時の対応について共有
- ・ ケアマネを中心としたチームづくり

★在宅の限界点を高める
★ケアマネ支援



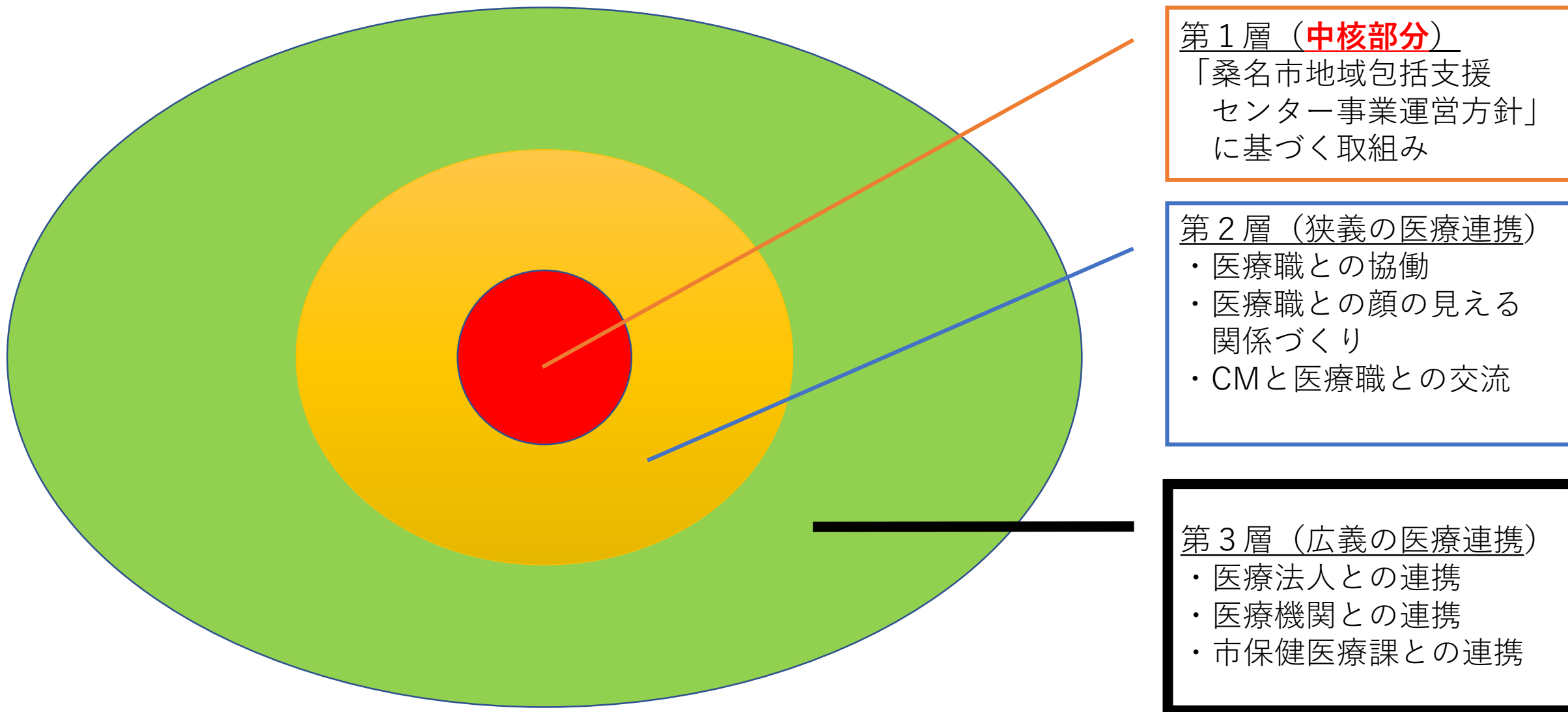
第2層での取組み【事例】 （医療職との顔の見える関係を活用した個別ケース支援）

- ・医療、介護のチームで取り組むことの重要性
- ・医療機関とのつながり強化
- ・ケアマネ支援の強化

在宅の限界点を高めるための気づき

- ・医療機関に積極的に出向く、チラシの配布
- ・ゆめはま未登録の医療機関にゆめはま登録依頼
- ・ケアマネ向けの研修、同行訪問 など

北部東包括 「医療連携」イメージ図



第3層での取り組み①(医療法人との連携)

圏域内における「地域貢献」力の高い医療法人と協働した取り組みを紹介します。

包括が行う「出前講座」に医療法人の理学療法士を招き「転ばん体操」の実施



講座で学んだ「ストループテスト」を自分たちで活用し始める。子どもも参加。



法人職員さんが認知症サポーター養成講座を受講。**認知症の方にやさしい医療法人へ。**



ある地区のまめじゃ会スタッフをしている民生委員さんより「最近団地の人で入院や介護サービスを受ける人が増えてきているのよ」

包括より「チェックリストをもう一度やってみましょう。まめじゃ会の他に運動をする通いの場を作ってみませんか？」



「そうねえ。でもどうやったらいいかわからないし、運動の知識もないのよね。」

包括より「**地域の医療法人が『出張健康教室』を開催しています。**一度まめじゃ会で実施して、運動の方法を学んでみてはどうですか？」



「そうね。一回やってみようかしら。コグニサイズと筋力トレーニングの講座を受けてみたいわ。」



打合せして



出張健康教室体験

住民さん、生活支援CO,包括で通いの場の内容を検討



通いの場「あしたば会」発足！

第3層での取組み②(医療機関・市保健医療課との連携)

東員病院職員による出前講座 「認知症かな？と思ったら・・・」



東員病院副院長：山本氏を招き、桑名市老人クラブ連合会長島分会総会、深谷地区社会福祉協議会総会にて「認知症」についての講座を実施させていただきました。

圏域を考える会で平成27年度より取り組んできたたけのこ農作業従事者への「くわないきいき体操～たけのこ編～」の普及・啓発からJAまつりへの参加へと繋がりました。



「当日出荷」徹底を JAみえきた 桑名特産たけのこ説明会

「JAみえきた」は、本格的なタケノコの出荷シーズンを前に桑名協賛センター・多摩事業所で「桑名特産たけのこ出荷説明会」を開き、約40人が参加した。生食用と加工用の出荷規格や「当日出荷」の日出荷一を大原則とする桑名特産たけのこについて詳しく説明し、重労働となるタケノコ栽培での生産者の腰痛予防や健康増進を目的に、桑名市の地域包括支援センター

H31/3/21付 日本農業新聞東海版より抜粋

桑名市保健医療課との協働



長島町出口地区にくわないきいき体操を広める為、保健医療課の協力のもと出口地区で行われている様々な通いの場にて体操の意義説明や体操の体験を行いました。



毎年11月に開催されるJAまつりにて、保健医療課、生活支援COとともに自機関のPRを行い、その後、地域で活動されている住民さんによる「くわないきいき体操」を披露していただき、住民さんへの周知・啓発に努めました。

取組みから得られた効果（まとめ）

在宅の限界点を
高められた

医療職との顔の
見える関係から
さらに密な関係
を築くことが
できた

微力ながら
家族の負担を軽減
することが
できた

医療職と地域に
出向くことで
自分たちの周知、
住民力の向上に
つながった

弱点だった
「ケアマネ支援」
を強化する
きっかけを得た

広義の医療連携
により、来年度
の「地域課題」
への取組みに
「連携」の仕方
を活かせる



「在宅医療・介護の連携」に向けた取り組み 今後の課題と取り組んでいきたいこと

短期目標

- ①あくまでも桑名市地域包括支援センター事業運営方針に示された方針・内容に**忠実に**、さらに取組みを進める。
- ②そのために、自分たちが**ACPやもしばなゲーム等の知識・理解をさらに深め、自信を持って**周知・啓発に努められるようになる。

長期目標

- ③特に入退院連携シートや入退院の手引きの活用、ゆめはまちゃんネットワークや後方支援ベッドを活用した**個別ケースの支援について委託のケアマネージャーへの助言・周知・啓発に努める。**

「**最期まで住み慣れた地域で暮らすことができる**」という**希望・可能性を実感できる地域づくりを目指して**

例えばこんなことも
できれば・・・
北部東包括も
「勝手に人生会議ポスター」



※案であり、実際に作成・使用する
場合には厚生労働省の許可をはじめ
関係機関にしかるべき承認を得て
行います。



イメージ 1

イメージ 2



ご清聴ありがとうございました

